

1. 実況上の着目点

① 沖縄の南には、300hPa で -30℃以下の寒気を伴った上層寒冷低気圧 (UCL) があって西進。衛星水蒸気画像で循環が明瞭。

② 日本の南には台風第 13 号があって北西進。南西諸島に向かって台風周辺からの下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっている。南西諸島付近の海上では、雷を伴った強い雨を解析。

③ カムチャツカ半島の東の低気圧から前線が東北地方を通り日本海にのびている。前線に向かって太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、前線近傍や暖域側では大気の状態が不安定となっている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①のUCLは13日は、沖縄の南を西進。南西諸島では、UCLに伴う上空寒気と1項②の台風周辺からの下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。

② 1項②の台風は、発達しながら日本の南を北西進し、14～15日は強い勢力で南西諸島に接近・通過する。南西諸島や九州南部では台風周辺からの下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、台風の接近・通過により、南西諸島では、14日は、猛烈な風が吹いて、猛烈なしけとなる所がある。南西諸島では14日は、暴風や高波に厳重に警戒し、15日は暴風や高波に警戒。南西諸島～九州南部では14～15日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や突風、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

③ 西日本～東北地方では15日にかけて、背の高い高気圧に覆われて晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。日射による昇温と太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(06時からの24時間)：関東甲信100mm。②波浪(明日まで)：奄美・沖縄9、九州南部5、近畿・四国・九州北部3m。③高潮(明日まで)：西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第13号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。